

6. 体育研究会研究テーマとそれをもとにした支部のテーマ

研究会テーマ

「体と心を育てる体育学習 めあて学習の充実によって、運動の楽しさを味わえる体育学習を目指して」
～「気付き・考え・活動する」を通して、誰もが運動の楽しさを味わえる授業づくり～

○今年度の重点研究課題

一人一人のめあて達成における有効な関わり方や、課題解決の在り方を検証する

○宮前支部の重点研究領域

「器械運動 跳び箱運動」

○支部のテーマ

採点、再考、再挑戦！自分の技を考える楽しい跳び箱運動の学習

○支部研究の視点について

跳び箱運動の楽しさ⇒新しい技ができるようになったり技をよりきれいにしていく楽しさ

【目指す子供の姿】

自らめあてを設定し、めあてを達成するために課題解決の方法を考え（選び）繰り返し技に挑戦し、
夢中になって跳び箱運動を楽しんでいる姿

○研究の視点

①AAR サイクルに基づく学習の道すじの検証

②子供がめあてを達成するために気付きを促す教師の関わり、子供同士の関わりを意識した授業づくり

③課題解決のための有効な場の検証

今までの跳び箱運動の学習では、「〇〇の技をできるようにする」というめあてをもって学習し、技ができたかできなかったかで学習を振り返ってきた。すると技ができたかどうか、〇か×かのふりかえりになってしまうことが少なくなかった。そうすると運動が苦手な子は、できないことばかりが積み重なり成功体験を感じづらくなる。また、運動が得意な子であっても技ができていてもより技をきれいにしていくという意欲が生まれづらくなることもある。

今回の研究では、技ができたかできなかったかではなく、お手本動画に自分がどれだけ近付けたかを得点化していく。そうすることで、運動が苦手な子でも自分の小さな成長を実感することができ、運動が得意な子も「100点に近付きたい」「100点を超えていきたい」と、自分の技を高めていくためにめあてをもつことができるのではないかと考えた。

○単元を通して目指す学びの姿

